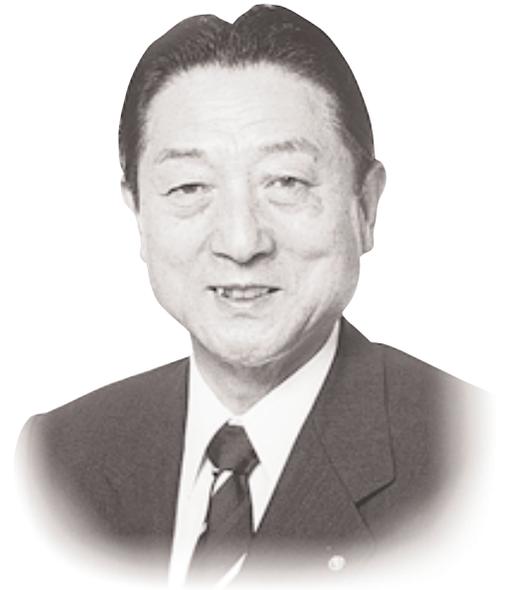


# 迎春



## 年頭にあたって

**皆** さま、あけましておめでとございませう。

年もあらたまり、万物悉く装いも新たに、新しい年を迎えることができました。心からお祝い申し上げます。

町政を担当して以来、皆さまの温かいご支援をいただきながら「潤いと安らぎのあるまち」を目標に鋭意努力を続けてまいりました。皆さまのお力添えに心から感謝申し上げます。

さて、昨年十一月十六日の衆議院の解散に伴う総選挙により、平成二十一年から始まった民主党政権から三年三か月ぶりに自由民主党政権へと変わりました。

地域社会や国民生活におけるさまざまな不安要因を取り除き、安心できる国民生活を守るための政治が期待されます。

申し上げるまでもなく、市町村が自主的・主体的な地域づくりを進めていくためには、その財政基盤の強化が不可欠であり、安定的な自主財源の確保が図られなければなりません。そして何よりも、

地方交付税制度を堅持し、財源保障機能と財源調整機能をより強化するため、三位一体改革で大幅に削減された地方交付税の復元・増額が必要であります。今後とも地方財源の充実・確保に向けて関係団体とともに国に対して訴えてまいります。

TPP問題については、関税撤廃に止まらず、食品安全、医療、保険、知的財産等さまざまな分野における非関税障壁の撤廃も伴うため、加盟することによる影響は計り知れないものがあります。

政府は、国民への情報提供

が少ないとの批判を受け、昨年TPPに関係する四十六業界団体と地方六団体の合計五十二団体との意見交換会を実施しましたが、このうち三分の二以上の団体は、「TPP参加反対」または「慎重な検討が必要」との意見を表明しています。

当町といたしましても、町議会をはじめ、関係団体と連携しながらTPPへの加盟断固反対に向けた運動を継続的に展開してまいります。

さて、昨年は、当町がアメリカ・オレゴン州・フッドリバー市と姉妹都市を締結して、三十五周年の節目の年となり、両市町において記念事業を開催することができました。これもひとえに、関係各位の温かいご理解とご支援の賜であり、深く感謝申し上げます。振り返る次第であります。振り返る

以来、高校生による一年間の留学生派遣事業や中学生大使派遣事業、さらには国際交流員を招致するなど、これまで両市町による相互交流者は、一千五百三十二名を数えるに至っております。

英語は世界の共通語であり、小学校から英語に親しみ、英語に強い子ども、英語に強い学校、そして英語に強い町を



さて、東日本大震災から一年十か月余が経過し、被災地では、本格的な復興に向けた取り組みがなされています。しかし、いまだ避難を余儀なくされている方が三十万人を超えるなど、各地に残された爪痕の大きさを改めて痛感しております。私たちは、被災者の一日も早い生活の再建と地域の再生を強く願うとともに、

てみますと三十五年前、二十一世紀の国際化時代の到来を見据え、これに対応できる人づくりを進めるため、一万キロ離れたアメリカ・オレゴン州・フッドリバー市において姉妹盟約書に署名したのが始まりでした。

さらに、昨年は青森県民体育大会において七年連続十八回目の総合優勝を成し遂げることができました。まさに青森県一スポーツが強い鶴田町として、その名をとどろかせてくださいました。この快挙は、選手ならびに関係者の皆さまが町の名誉をかけて一致団結して成し得たものであ

目指したいという願いを込めて実施してまいりました。

三十五周年を契機として、フッドリバー市との交流がなお一層強い絆で結ばれ、永遠に交流を深め飛翔することを祈念申し上げる次第であります。

その中で一番の医師不足は西北五地域であることから、医師確保対策を講じつつ、中核病院となる「つがる総合病院」との役割分担をしながら、町民の皆さまが安心して医療を受けられる環境整備を行い、地域医療の充実に貢献できるように努めてまいります。

り、体育協会ならびに関係各位に対しまして心より敬意を表する次第であります。

また、かねてから進めてまいりましたつがる西北五広域連合「鶴田診療所」の建設が去る十二月十四日をもって竣工し、新診療所として開院する運びとなりました。本県は、全国一の医師不足県であり、



に、この大災害を過去のものとすることなく、私たちの生活は常に災害と隣り合わせであるという認識のもと、災害に強いまちづくりを進めていかなければなりません。とりわけ本年は、防災行政用無線の整備ならびに避難拠点に指定されている施設へ配水管路の耐震化に向けて検討を進め、災害時における情報伝達手段の確保と、避難拠点施設への安定した水の供給に努めてまいります。

平成二十四年の世相を表す「今年の漢字」に「金」が選ばれ、京都清水寺の森清範貫主が特大の和紙に揮毫（ぎご

う）し、披露しました。

ロンドン五輪での金メダルや、山中伸弥京都大学教授のノーベル生理学・医学賞受賞など、たくさんさんの「金字塔」が打ち立てられたほか、九百三十二年ぶりの金環日食の観測なども理由に挙げられていますが、当町にとりましても、この「金」に肖り、今年一年が輝かしい年でありませうよう祈念いたします。

本年も、町民の皆さまとともに知恵を出し合い、安全で安心して暮らせるよう、小さいながらもキラリと光るまちづくりに向けて、誠心誠意努力してまいりますので、なお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆さまにとりまして健やかで幸多い年でありませうよう祈り申し上げます。新年のあいさつといたします。

鶴田町長 中野 撃司



## 雨にも負けず

## 風にも負けず

## TPPにも負けない町を

**新**年おめでとうございませす。

町民の皆さまには、健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平成二十五年の年頭に当たり町議会を代表して、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年は、選挙の年でありました。世界的にはフランスの大統領選挙、アメリカの大統

併して以来の無投票での選挙となりました。議員一同、さらに気を引き締めまして、民意を町政に反映させるため、粉骨碎身の気持ちで頑張りま

す。平成二十四年を振り返ってみますと、大雪に始まり、春夏の異常気象、収穫期の秋の長雨などにより、農家の皆さまには大変な一年であったと思われます。しかしながら、

夏にはスポーツの祭典、ロンドンオリンピックが開催し、日本は史上最多の三十八個のメダルを獲得し、メダルラッシュにわきました。青森県のスポーツの祭典県民体育大会においても鶴田町は七年連続十八回目の優勝の栄冠に輝きました。町民憲章のひ

つに「スポーツに親しみ、健康で住みよい町を作りましよう。」とありますが、正にそのようになっているものと思

います。昨年の主な行事としては、5月に鹿児島県さつま町との災害時相互応援協定を結び、8月には青森ねぶたに「鶴の



舞橋」が出陣したのを機に町民百二十人が運行に参加し、全国に鶴田町をPR出来たと

思います。また、十月にはフットリバー市より八名の訪問団をお迎えし、姉妹都市締結三十五周年式典が開催され、

末永い交流を誓い合いました。一方、コメとリンゴを主産業とする当町にとりましては、

TPPに参加交渉の前に農家の皆さんがしっかりと生活できるような具体策を示していただきたいものです。雨にも負けず、風にも負けず、TPPにも負けない町を目指したいと思います。

TPPには「農（のー）の声を上げ、ピー、ピー」と警笛を鳴らしたいものです。そして、それに代わる新TPPとして

TPP つるた  
P パワーアップ  
P プラン  
で外圧をはねとばす妙案を考えております。

当町においては、健診率日本一を目指して事業を展開して、その成果が徐々に達成されつつあります。元NHKのアナウンサー鈴木健二さんは「健康は人間が自分に贈る、最高のプレゼントです。」と言っています。健康を維持するためには健診がとても重要だと思えます。

今後も健診率の向上をはかり健康で文化的な生活を営める町づくりを目指していきたいと思えます。当町の主産業であります農



業ですが、コメは夏場の異常高温による乳白化や刈り取り遅れによる胴割れなどで落等のため、一等米比率が82・1パーセントとなったものの、作柄指数は一〇六と平年並みとなり、価格は前年産を上回りました。リンゴは豪雪による枝折れやカラマツが一部で発生しましたが、平年並みの着果量を確保できました。厳しい残暑による日焼けや着色遅れが見られ、また、価格は前年より安値となっており、ブドウは夏場の高温によって糖度が平年より高いものとなりました。

コメ、リンゴ、ブドウ等、当町においては農作物が豊作

でかつ値段が良いのが理想的であります。そうなることにより、農家の方々が豊かになり、地域が、町全体が豊かになります。

豊かさを実感出来る町づくりが求められています。豊かさを感じ、住みやすさを感じ、生きがいを感じられる町のために議会が果たす役割が大きくなっています。

地方分権が進む中、今まで経験したことのない大きな改革の時期に遭遇しております。市町村の真価が問われる時代になり、私たち議員も何が必要か、的確に判断し、町との十分な意思疎通を図りながら、その責務を果たし、住みよい町づくりのため努力して参るつもりです。そして行政と議会と町民が一体となった町づくりを進めたいと思います。

終わりに、本年も町民の皆様が健やかで幸多い年でありますようお願い申し上げます。議会を代表して、新年の挨拶といたします。

鶴田町議会議長 出町 豊

### 山道弥生画保存会

- ・題名「大黒様」
- ・制作者 会長=小野寺秀昭ほか会員15人
- ・原画 田舎館村田んぼアートより
- ・制作期間 11月20日～12月25日
- ・使用した種子穀物  
大根、カラシ菜、玄米、もち米、キミうるち米、菜種、胡麻、ニンジン、粟小豆、ゴボウ、粟、キュウリ、メロンタマネギ、白菜、オクラ
- ・弥生画寸法 縦1.9尺 横3.2尺
- ・奉納場所 山道くもおかみ神社大鳥居



### 今年の弥生画

今年、山道地区と鶴田地区の神社に奉納された弥生画をご紹介します。

#### 元町弥生会

- ・題名「丹頂の息吹」
- ・制作者 会長=澤田記成ほか会員14人
- ・下絵制作者 太田裕久(元会員)
- ・下絵製作期間 9月1日～11月15日
- ・種子貼付期間 11月21日～12月29日
- ・使用した種子穀物  
もち米、うるち米、菜種、黒胡麻、粟小豆、マイロ
- ・弥生画寸法 縦1.9尺 横3.2尺
- ・奉納場所 鶴田八幡宮正面大鳥居

